TOYOTOMI

トヨストーブ

Mini FF

形式 NSS-2B

密閉式石油ストーブ

取扱説明書

このたびは本品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。

■ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書・注意書」をお読みいただき、正しい使いかたをしてください。
この「取扱説明書・注意書」は、大切に保管しておいてください。

■同梱のご愛用者カードは必ずご投函ください。

●まちがった使用をされますと、機能を十分に発揮しなかったり、故障や思わぬ事故・危険を招くことがあります。

●高地での使用
※標高1,500m以上の場所で使用しないでください。
※標高1,000m～1,500mの場所で使用になる場合、再調整が必要です。
お買い求めの販売店までお問い合わせください。

●燃料は灯油(JIS 1号)をご使用ください。
変質灯油、不良灯油は絶対に使用しないでください。
故障、異常燃焼の原因になります。

KEROSENE ONLY
ガソリン厳禁

株式会社 トヨトミ

305-2

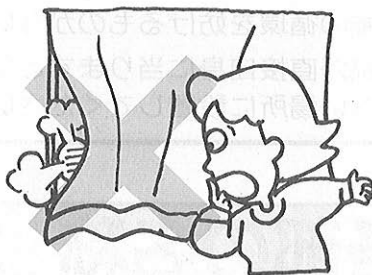
4816001921

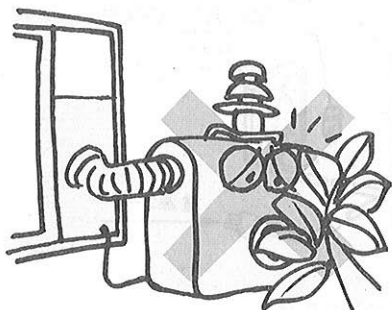
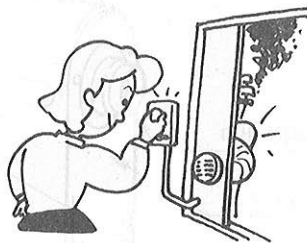
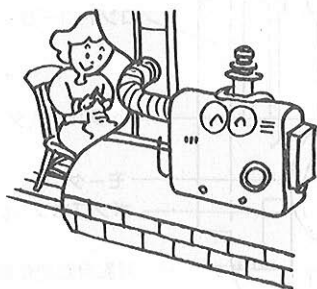
目　次

1 特に注意していただきたいこと

★ガソリン厳禁
灯油（JIS1号灯油）を必ず使用してください。

ガソリンなどの揮発性の高い油は、火災の原因になりますので絶対に使用しないでください。

★温風吹出口をふさがないで
衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。

衣類、紙などでふさぐと、異常燃焼や火災の原因になります。

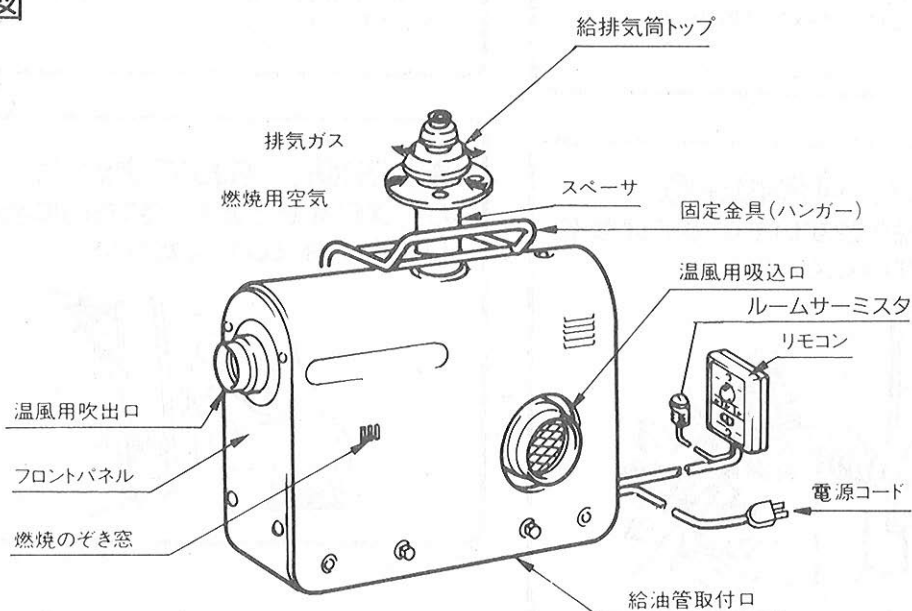
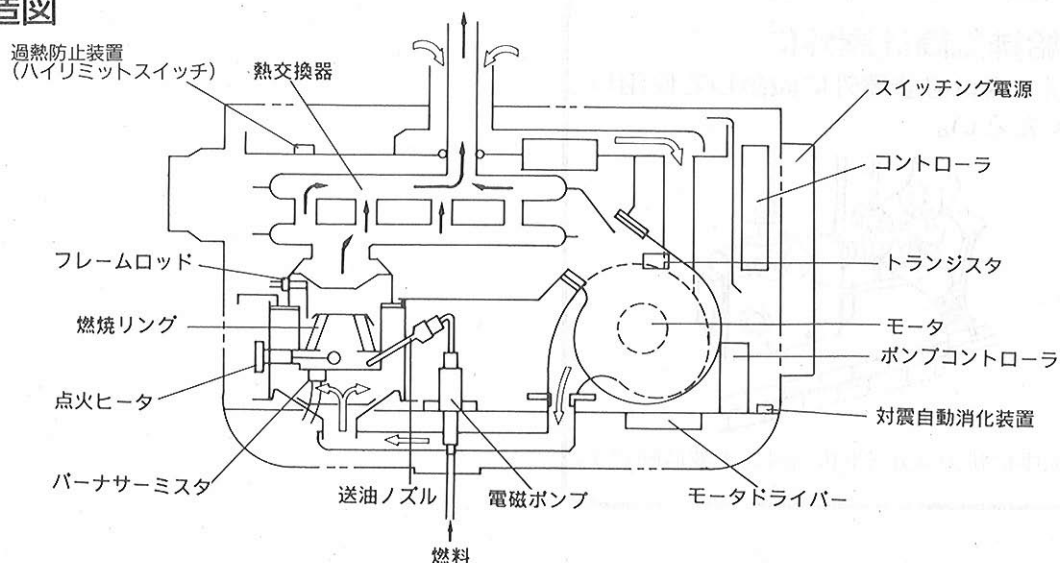
★カーテン、可燃物注意
カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。

★異常時、あわてず消火
万一異常を感じたり、緊急の場合はあわてずに消火してください。

★給排気筒は屋外に
給排気筒は必ず屋外に設置して使用してください。

運転中に排ガスが室内に漏れ、大変危険です。

2 使用する場所

効果的に使用するために

- 温風の対流熱で暖房が最も効果的にできる場所を選んでください。
- 温風の循環を妨げるものがない場所に設置してください。
- 温風が直接自身に当りますと気持ちが悪くなることがあります。温風が直接当らない場所に設置してください。

3 各部の名称

外観図

構造図

4 使用方法

使用燃料

● **燃料は灯油(JIS1号)を必ず使用してください。**

ガソリン、シンナーおよびこれらが混入した灯油、変質灯油、汚れた油、水の混じっている灯油などは、絶対に使用しないでください。
灯油は、必ず火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。

変質を防ぐため灯油は翌シーズンに持ち越さないようにしてください。

給　油

給油の際の手順と注意

1 タンクキャップを取り外し、タンクケースフタを持ち上げタンクケース内のポリタンクをタンクケースから取り出して給油します。

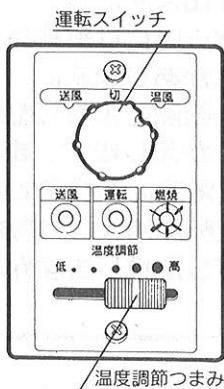
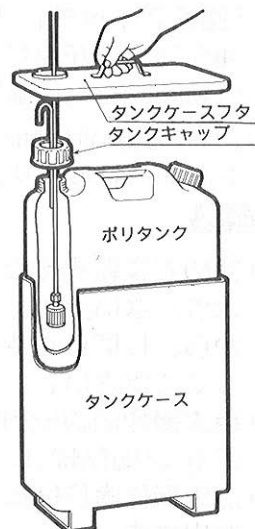
注意 ● 空のポリタンクと満たんのポリタンクと入れかえると便利です。ポリタンクは、必ずJIS規格に適合した灯油用ポリエチレンかんをご使用ください。
● 給油管先端のストレーナは必ず付けてご使用ください。電磁ポンプ内にごみが混入します。

2 こぼれた灯油はよくふきとってください。

3 タンク内に水やごみなどが混入しないように注意してください。タンク内に水やごみなどがたまっている場合は、市販の給油ポンプなどで水やごみなどを吸い出してください。

4 タンクキャップフタを必ず元通りしっかりと閉めてください。

燃料切れの注意

● 燃焼中に灯油がなくなると消火します。この時、燃焼ランプが点滅し、異常があったことを知らせます。
● 燃料切れの際、本体内部の電磁ポンプが空気を吹込むため「ポー」と音が出たり、給排気筒トップから黒煙を出したりすることがあります。
● 再運転をする場合は、ポリタンクに給油し「運転スイッチ」を一度「切」にしてから「温風」にしてください。(送油管部分に灯油を満たす為、点火操作を2〜3回くりかえしてください。)
● ポリタンク内の給油管の先端にあるストレーナが油面より出ていると灯油を吸い上げることができません。

使用前の準備と確認

1 送油経路に油漏れのないことを確認してください。
このヒーターは、下方に設置された油タンクから給油管により、電磁ポンプで灯油を吸い上げバーナー部に供給します。各部より油漏れのないことを確認してください。また給油管の折れ曲がりのないことも確認してください。

2 電源コード、リモコンコードは、高温部に接触したり損傷していないか確認してください。

3 温風吹出し口付近や、本体付近や給排気筒トップ付近に燃えやすい物がないことを確認してください。

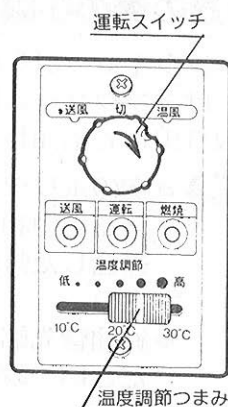
4 給排気筒トップは必ず屋外に設置し、屋内へ排ガスが流れ込まないようにしてください。

点　火

①「運転スイッチ」を「温風」にします。
運転ランプが点灯し約12秒後より送風が開始され、自動的に点火し温風を吹出します。

②約1～3分間の間に燃焼ランプが点灯し、燃焼の開始をお知らせします。

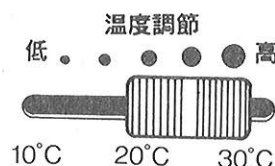
注意

- **初めて運転するときは、送油経路に充分燃料が供給されてないため、一回で点火しない場合がありますから、しばらく待ってからもう一度点火操作を行なってください。**
- **点火操作後約5分間は、「温度調節つまみ」の位置に関係なく「弱燃焼」します。**
- **点火操作直後はヒーターが温まっていないため冷風が出ます。**
- **点火時には給排気筒トップより少量の白煙が出たり室内に若干の臭気を感じることがあります。**
- **運転開始より「燃焼ランプ」が「点灯」するまでの間、送風モータは回転と停止をくりかえします。また、電磁ポンプの周期的な振動音（1～2回/秒）が若干しますが異常ではありません。**
- **運転開始より「燃焼ランプ」が「点灯」するまでの間「燃焼ランプ」が点灯したり、消灯したりしますが異常ではありません。**

火力調節(室温の調節)

「温度調節つまみ」をお好みの位置に設定してください。
設定温度より室内温度が低い場合は、**「強」**燃焼。室内温度が高くなってくると**「弱」**燃焼に切り替わり、さらに室内温度が高くなると、自動的に**「消火」**します。
このとき「運転ランプ」は点灯しています。
再び室温が低下すると自動的に点火・運転します。

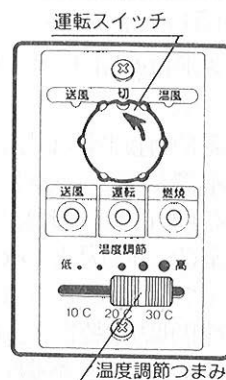
- **「強」**運転時には強風量、**「弱」**運転時には弱風量にて温風を吹出します。
- 温風吹出し口を回転させて、温風吹出し方向をかえることができます。

注意

- **室内の温度はルームサーミスタで感知しています。室温と一致しない場合は適切な位置に付け替えてください。**
- **設定温度の目安は右図の通りです。**
- **自動「消火」することなく、「強」燃焼または、「弱」燃焼を続けている場合約5時間毎にいったん消火し、再び点火・運転します。これは、燃焼バーナ内の燃料を定期的に一掃させるための自動消火です。**

消　火

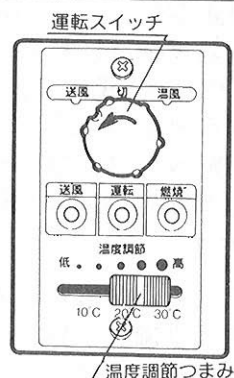
①**「運転スイッチ」を「切」**にしてください。
温風ランプが消灯し、次に燃焼ランプが消灯し、消火します。

注意

- **消火後約2分間は、強制的に送風運転し、その後自動的に停止します。運転中に電源プラグをコンセントから抜いたりして消火させないでください。ヒーターの過熱を防ぐために、この2分間の運転は必ず必要です。**

消火後再点火するときの注意

- 消火後すぐに再点火すると、異常音(爆発音)が出ることがありますので、しばらく(約10)待ってから再点火してください。

送風運転

「運転スイッチ」を**「送風」**にします。
送風ランプが点灯し送風モータのみ運転します。
「温度調節つまみ」の位置により設定温度より室内温度が高い場合は、**「強」**風量、室内温度が低くなってくると**「弱」**風量に切り替わります。
送風運転の自動**「停止」**はありません。

使用上の注意

- **給排気筒トップは高温になります。やけどに注意してください。**
- 温風吹出口のみ室内に設置してある場合(外気導入方式)、密閉度の高い部屋に温風を吹込みますと温風が流れず、ヒーター内部の過熱防止装置が作動することがありますので、換気窓などを開けてご使用ください。
- 温風吹出口と温風吸込口が室内に設置してある場合（内気循環方式）、温風が直接吸込口より吸込まれてしまわないよう温風吹出口のルーバー角度などを調節して使用してください。
- 温風吹出口からの温風は高温になります。直前に燃えやすいものを置かないでください。
- 家庭用温室などでのご使用について
  本機は7ページに示すように様々な安全装置を備えており、異常の際には運転を停止する機能となっています。冬期に観葉植物などの育成のために家庭用温室の主暖房としてご使用になる場合は、異常停止を想定して補助暖房装置を備えつけることをお薦めいたします。例えば、本機の設定温度を15°Cにて設定し補助暖房装置を10°Cに設定します。通常は本機で温室内を約15°Cに暖房します。もし、本機が強い振動を受けて運転を停止した場合、室温が10°Cまで低下すると補助装置が運転しはじめるような補助暖房装置を備える。

表示ランプの見方

ランプ名	意味
燃焼ランプ(赤) 点灯	燃焼炎の存在中に点灯します。
運転ランプ(黄) 点灯	温風運転中点灯します。
送風ランプ(緑) 点灯	送風運転中に点灯します。

安全装置が作動したときの再点火方法

1「**運転スイッチ**」を一度「**切**」にしてから「**入**」にしてください。

2「**運転ランプ**」が点灯します。

- 安全装置が作動するのは何らかの異常があるときですから、上記の操作をしても正常にもどらないときは、お買い求めの販売店にご相談ください。
- 異常時には安全装置が作動し、ランプが点滅し消火します。ランプの点滅モードにより、どの安全装置が作動して消火したかを判別できます。

安全装置	意味	ランプの点滅 送風(緑)	運転(黄)	燃焼(赤)
(1) 対震自動消火装置	●運転中にヒーター本体が強い地震や衝撃を受けたとき、火災などの危険を防ぐために運転を停止させる安全装置です。 ●再点火操作をすれば自動的にセットされます。		☼	
(2) 点火安全装置	●点火ヒータ・電磁ポンプ・送風機などの故障により点火しないときに運転を停止させる安全装置です。 ●原因を取り除いてから再点火操作してください。			☼
(3) 炎監視装置	●燃焼中に炎が消えたとき、自動的に運転を停止させる安全装置です。 ●原因を取り除いてから再点火操作してください。			☼
(4) 停電安全装置	●運転中に停電や電源プラグを抜くなどして電源が切れたときは、自動的に運転を停止します。再び通電をされても運転させない安全装置です。 ●再運転は再点火操作を行なってください。	☼	☼	☼
(5) 過熱防止装置	●送風機モーターの故障や異常燃焼などの原因でヒーターが異常過熱したとき、火災などの危険を防ぐために燃焼を停止させる安全装置です。 ●原因を取り除いてから再点火操作してください。		☼	
(6) 点火ヒータ断線検知装置	●点火ヒータコイルが断線したときに運転を停止する安全装置です。 ●再運転は、原因を取り除いてから再点火操作してください。		☼	☼
(7) バーナボトム温度監視装置	●燃焼中バーナの温度が異常に低くなった場合に自動的に運転を停止する安全装置です。 ●再運転は、原因を取り除いてから再点火操作してください。	☼		☼
(8) ルームサーミスタ断線検知装置	●ルームサーミスタが断線したとき、運転を停止する安全装置です。 ●原因を取り除いてから再点火操作をしてください。	☼		

6日常の点検、手入れ

- 点検手入れをおこなうときは、ヒーターを消火し、ヒーターが十分冷えてから必ず電源プラグを抜いておこなってください。
- 電装部品や燃焼部の取りはずし、分解はおこなわないでください。

使用のたびに

●周囲の状態

ヒーターの周囲は、常に整理、清掃し、燃えやすいものを置かないようにしてください。又、ヒーターはいつも清潔に掃除してください。汚れたままのご使用は危険のもとですし、ヒーターのいたみを早めます。手入れがいつもゆきとどいていますと、よい燃焼を得ることができます。

●油漏れ、油のたまり、油のにじみ

日常、油漏れかまたは油のたまり、油にじみがあるかどうかを調べるよう習慣づけ、給油のときこぼれた灯油はよくふきとってください。
万一油漏れによって油のたまり、油にじみが生じているときは、消火操作をし、原因をたしかめ防漏処置をし、油漏れがなくなったことを確認してから点火操作をしてください。

●ほこり

たまったほこりや汚れは、油がしみたりして思わぬ事故の原因になります。ほこりや汚れはきれいに取除いてください。

●給油管の点検

給油管から油漏れがないか点検し、亀裂などがあれば交換してください。

●臭気、すす

燃焼中に排気ガスの臭いがしたり、給排気筒トップからすすが出ていないか確認してください。異常があれば販売店に連絡してください。

●燃焼状態

燃焼中、燃焼のぞき窓から炎の状態を確認してください。きれいなブルーの炎が正常です。黄炎が立ちのぼるような場合は異常燃焼です。販売店まで連絡してください。

1箇月に1回以上

●のぞき窓

のぞき窓がすすでくもってくるような場合は販売店にご相談ください。

●温風用吹込口の掃除

温風用吹込口には金網が設けてありますので、ほこりを除去してください。

●給排気筒及びトップの周囲

給排気筒及びトップの周囲には、危険物や障害物がないようにしてください。給排気筒の接合部のはずれ、腐食物によるつまり、固定の状態を点検して異常があれば正常な状態にしてください。

3箇月に1回以上

●油タンク（別置タンク）

給油口フィルタがごみやほこりで目づまりしますと、給油時に給油口よりあふれ出たりします。給油口フィルタを取出して付着したごみやほこりを取除いてください。

●油タンク内の水

油タンクに水やごみがたまっておれば、給油口から市販のポンプで吸出すか、ドレンなどから流してください。

●ストレーナ（附属品）

附属のストレーナは特殊紙でできています。ごみなどが詰っておれば、きれいな灯油で洗ってください。それでも取れない場合は交換してください。

●配管途中のストレーナ

配管途中にストレーナが設けてある場合、ストレーナ内部に水やごみが入ると、点火不良や燃焼不良をおこすことがありますので必ず掃除をしてください。

●点火ヒータ

点火ヒータ及びパッキンがなくなったり、切れたり、すきまなどがあると、着火不良及びガス漏れの原因になります。
販売店にご相談ください。

●バーナ

長期間ご使用になりますとバーナ内部が汚れてきますので掃除をしてください。
販売店にご相談ください。

7 定期点検

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。機器の寿命をより長く、より良い燃焼で快適に安全にお使いいただくために、2シーズンに1回程度、シーズン終了後などに、お買い上げ店、又は修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会（TEL03-3499-2928）でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる店、当社支店・営業所などに点検依頼されることをおすすめします。

8 故障・異常の見分け方と処置方法

現象			原因	処置方法
運転スイッチを入れても運転ランプがつかない。			①電源プラグをコンセントに差込んでない。	さしこむ。
			②停電した。	停電復帰後、点火操作する。
ランプ点滅・消火				
送風（緑）	運転（黄）	燃焼（赤）		
	☼		①対震自動消火装置が作動した。	再点火操作する。
	☼		②過熱防止装置が作動した。	温風吸入口、温風吹出口をほこり、障害物で塞いでないか確認する。本体が冷えてから再点火操作する。
		☼	①点火安全装置が作動した。	油タンクに灯油があるか？油タンクに水が混入してないか？ストレーナ部が油面よりういてないか？を確認してください。
		☼	②炎監視装置が作動した。	異常燃焼してないか確認して、きれいなブルー炎であること。黄炎が立ちのぼったりした場合は販売店にご相談してください。
	☼	☼	点火ヒータコイルが断線した。	点火ヒータを交換して下さい。販売店にご相談してください。
☼	☼	☼	①停電後、再復帰した。	再点火操作してください。
☼	☼	☼	②点火ヒータコイルの変形。	点火ヒータを交換して下さい。販売店にご相談してください。
☼		☼	バーナボトム温度監視装置が作動した。	バーナサーミスタを交換してください。販売店にご相談してください。
温風が非常にくさい。			燃焼ガスが温風に混入しています。	点火ヒータパッキンなどのパッキン類の破損、接続部の不良など点検してください。販売店にご相談してください。

この表以外に不具合のあるときは、お買い求めの販売店にご相談ください。

9 部品交換のしかた

短期間に消耗する部品は特にありませんが、電磁ポンプ、点火ヒータ、パッキンなどの交換部品が必要な場合は、お買い求めになった販売店にご相談ください。
- 部品交換の際は、必ず専用の補修部品をお使いください。専用部品以外の部品を使用して万一故障や事故が発生した場合、弊社は責任を負いかねます。
- **不完全な修理は危険です。修理をお受けになる場合は、財団法人日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)などのいる販売店で修理されることを推奨します。**

10 保管(長期間使用しない場合)

- 格納・保管場所は、湿気・火気・高温などの悪い影響のおよぼしにくい所であって、しかもヒーターの上には重要物を乗せたり、人が乗ったりしないように配慮してください。

1 ヒーターを長期間使用しないで保管するときは、先ず電源コードのプラグをコンセントから必ず抜いてください。
- ヒーターを使用する季節が終り格納する時は、油タンクの灯油を全部抜き取ってください。

2 ヒーターや油タンクの表面のよごれとかほこりをやわらかい布で清掃してください。ポリエチレン袋とかハトロン紙で包んで格納すれば完全です。

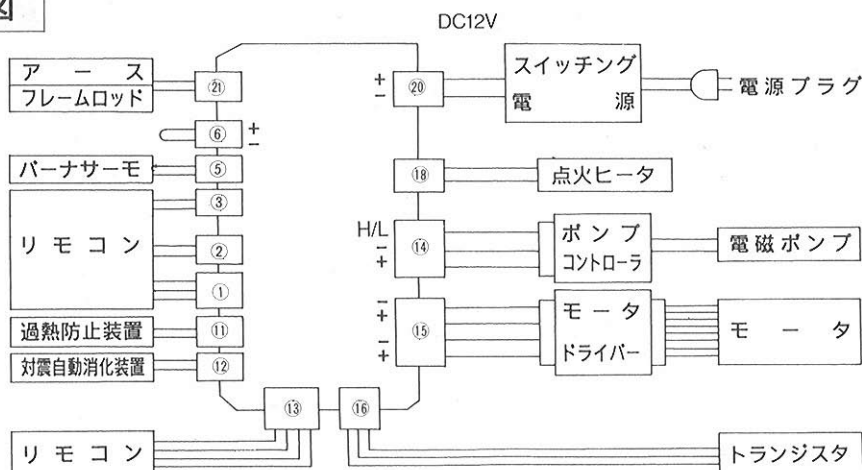
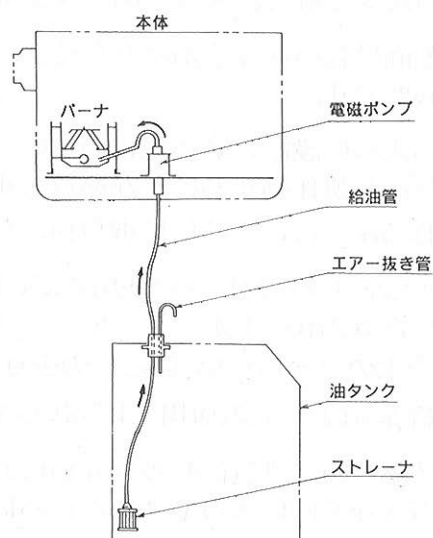
3 本体にほこりがたまらないよう、適当なカバーをかけてください。

4 附属品と「取扱説明書・注意書」も紛失しないよう同時に格納しておきましょう。

11仕　様

形式の呼び	NSS-2B	
種　　類	密閉式石油ストーブ・ポット式・強制対流形	
点火方式	電気点火	
使用燃料	灯油（JIS 1号）	
燃焼状態	強	弱
燃料消費量	0.28ℓ/h	0.14ℓ/h
発熱量	9628kJ/h(2300kcal/h)	4814kJ/h(1150kcal/h)
熱効率	90%	90%
暖房出力	2.41kW（2070kcal/h）	1.20kW（1035kcal/h）
外形寸法	高さ310mm 幅440mm 奥行175mm	
重　量	約9.1kg	
電源電圧及び周波数	100V 50/60Hz	
定格消費電力	点火時 100/100W(点火時約3分)	
	強燃焼時 29/29W　弱燃焼時 15/15W	
給排気筒径	φ50mm(給気側)・φ25mm(排気側)	
排気温度	260°C以下	
安全装置	対震自動消火装置・点火安全装置・停電安全装置	
	過熱防止装置・燃焼制御装置	
その他の装置	点火ヒータ断線検知装置・バーナボトム温度検知装置	
附属品	給排気筒トップ・スペーサ・タンクキャップ・エアー抜きホース・タンクキャップアダプタ・給油管（ナイロン）・フクロナット(2)・ スリーブ（2)・ストレーナ・木ネジ(8)・給油管(銅)・ゴムワッシャー・タッピンねじ(3)・防熱板	

配線図

DC12V
アース
フレームロッド
㉑
⑥ + −
バーナサーモ
⑤
リモコン
③
②
①
過熱防止装置
⑪
対震自動消化装置
⑫
⑬
⑯
リモコン
トランジスタ
+ − ⑳
スイッチング電源
電源プラグ
⑱
点火ヒータ
H/L − + ⑭
ポンプコントローラ
電磁ポンプ
− + − + ⑮
モータドライバー
モータ

送油経路図

12 アフターサービス

故障修理の場合は、お買い求めの販売店または、当社までご連絡ください。
(住所・電話番号は、ウラ表示をご覧ください。)

注意 つぎのような原因による故障および事故につきましては、保証の対象となりませんのでご注意ください。

(1)変質灯油や不純灯油など、また灯油以外の燃料を使用したために故障や事故になった場合。
(2)空気吹込口やストレーナなどの掃除をおこたったために発生した故障。
(3)記載されている注意事項が守られず、誤った使いかたをされた場合。

維持管理(メンテナンス)

無料修理期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって性能が維持できる場合は有料修理致します。なお、メーカーは、販売店からの注文により補修用性能部品を販売店に供給します。
石油ストーブの補修用性能部品の保有期間は製造打切後７年です。
　性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

13 据付け工事後の確認と試運転

据付け場所の選定

1 ヒーターの周囲には可燃物がなく、火災予防上安全な場所。

2 ヒーターを据付ける壁面は強い振動や衝撃がなく、ヒーターの重量に十分耐え、安定していることが必要です。

3 ヒーターは水平になるように設置してください。ヒーターを水平に設置しませんと、対震自動消火装置が誤作動することがあります。

4 小さなお子さまが触れるようなところには取り付けないでください。

5 電源は家庭用100Vの電源コンセントをご使用ください。
（電源コードの有効長さは2ｍです。）

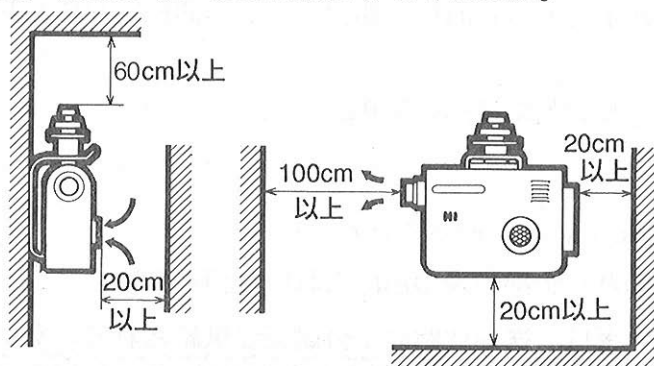
● 電源コンセントは雨や水のかからない、ほこりの少ない所に設置してください。

6 植木や愛がん動物は給排気筒トップの出口よりなるべく遠ざけてください。

7 灯油を燃焼させるため燃焼時給排気筒トップからにおいが出ます。出入口に近いところ、また排気ガスが室内に入りやすいところには取り付けないでください。

8 積雪の多い地方では、給排気筒が雪でふさがれないように注意してください。また風がよどむような場所では、排ガスを再度吸込んで不完全燃焼を起こすようなことがありますので注意してください。

標準据付け例

注意 ヒーターの表面は非常に熱くなる場合があります。構造物などが直接ヒーターの表面に接触しないように設置してください。

据付け工事後の確認

据付けが終わりましたらもう一度つぎのことを確認してください。

- ヒーターの周囲に可燃物がなく、必要な空間寸法がとられていますか。
- ヒーターが水平に据付けられていますか。
- 給排気筒トップの周囲は基準の寸法が守られていますか。
- 電源は家庭用100Vの電源コンセントを使用していますか。
- ヒーターが丈夫な壁面に取付けられていますか。

試運転

運転準備

1 油タンクに灯油が十分入っており、油タンクや送油経路から油漏れがないか確かめてください。

2 電源プラグをコンセントに差込みます。

運　転

3ページ **4使用方法** に従って運転させてください。

注意 **正常運転時のバーナ部の炎の色はきれいな青炎です。**

- **初めて運転するときは、送油経路に十分燃料が供給されていないため、白煙(灯油の蒸気)が出て一回で点火しない場合がありますから、しばらく待ってからもう一度点火操作をおこなってください。**
- 点火時には少し臭いがあります。
- 点火時には「ボコボコ」あるいは「ゴー」と音がすることがありますが異常ではありません。
- 開こんして始めて使用したとき、防錆油とか塗料やほこりが乾燥したり、焼けたりすることによって温風吹出口から、煙やにおいが出ることがありますが、2〜3日でなくなりますので部屋の換気をしながらご使用ください。

《アフターサービス》

故障修理の場合は、お買い求めの販売店または下記にご連絡ください。

株式会社トヨトミ

事業所	所在地・連絡先
本社	名古屋市瑞穂区桃園町5番17号 〒467-0855 TEL(052)822－1144㈹ FAX(052)822－2742
札幌支店	札幌市西区八軒1条東4丁目1番11号(泰伸ビル4F) 〒063-0861 TEL(011)631－8651㈹ FAX(011)631－8650
仙台支店	仙台市宮城野区苦竹3丁目6番10号(協和運輸倉庫㈱事務センター3F) 〒983-0036 TEL(022)232－0296㈹ FAX(022)236－1860
青森営業所	青森市長島二丁目14番10号 〒030-0861 TEL(017)777－7591 FAX(017)773－2805
郡山営業所	郡山市台新1丁目32番2号(ロイヤル台新1F) 〒963-8852 TEL(024)939－7635 FAX(024)938－1827
東京支店	東京都文京区白山二丁目26番19号(トヨトミビル7F) 〒112-0001 TEL(03)3816－0951㈹ FAX(03)3816－0954
水戸営業所	水戸市白梅三丁目12番11号(ツカサハイツ) 〒310-0804 TEL(029)231－6120 FAX(029)226－9344
前橋営業所	前橋市大友町二丁目8-1 〒371-0847 TEL(027)251－8826 FAX(027)252－8224
厚木営業所	厚木市下依知954番地 〒243-0806 TEL(046)246－5300 FAX(046)246－5302
名古屋支店	名古屋市熱田区金山町1丁目6番18号(バイオレットビル4F) 〒456-0002 TEL(052)681－1141㈹ FAX(052)681－1140
静岡営業所	静岡市敷地2丁目9番20号 〒422-8036 TEL(054)238－2278 FAX(054)238－2363
金沢営業所	金沢市駅西本町3丁目16番33号 〒920-0025 TEL(076)223－4488 FAX(076)223－4490
松本営業所	松本市南原一丁目19-2(塚本ビル) 〒390-0846 TEL(0263)28－0417 FAX(0263)28－0416
大阪支店	大阪市浪速区幸町3丁目6番15号 〒556-0021 TEL(06)6562－0351 FAX(06)6562－0361
岡山営業所	岡山市下中野348-101 〒700-0973 TEL(086)244－0868 FAX(086)244－0889
高松営業所	高松市東ハゼ町16-15 〒761-8054 TEL(087)865－1617㈹ FAX(087)865－1618
広島支店	広島市西区商工センター六丁目4番20号 〒733-0833 TEL(082)277－2351㈹ FAX(082)277－5990
福岡支店	福岡市東区松島3丁目13-10 〒812-0041 TEL(092)611－1974㈹ FAX(092)611－7289
鹿児島営業所	鹿児島県始良郡始良町西宮島町1-11 〒899-5433 TEL(0995)66－3131㈹ FAX(0995)66－3181

R－Ⓑ

株式会社トヨトミは快適環境の一環としてこの説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。